

地域権力構造の実証的研究

— S 市 の 事 例 —

河村 望*, 高橋 和宏*, 迫田 耕作**

*東京都立大学都市研究センター・人文学部 **愛知大学
「総合都市研究」第28号 1986 pp.173—203

はじめに

- I 問題の限定
- II 歴史的背景
- III 権力の配分構造
- IV 争点と政策決定
- V ネット・ワークと権力構造
- VI 結 論

要 約

地域社会の権力構造の分析は、これまで主としてアメリカでおこなわれてきたが、本稿はそれを日本の一地方小都市でおこなった。その結果、アメリカでコミュニティという地域単位でパワーをもっている人がビジネスマンであるのにたいし、日本の小都市でパワーをもっている人と地元の人びとからみなされているのは、政治家や議員が多く、日本の地域社会では民間人はパワー（権力）をもつものとみなされていないことがわかった。また、日本の小都市では地域のまとまりは、町内会・部落会などの単位でみられるのであって、とくに農村部では大字ないし部落（区）が重要であって、重要な決定も行政の次元とは独自に部落でなされることが多い。日本は資本主義の発達にもかかわらず、古い共同体的関係が残っていて、それが地域の権力構造を大きく左右している。

Key Words (キーワード)

地域社会 (Community), 権力 (Power), 政策決定 (Desision Making), ネットワーク (Network)